

飯田の手仕事



作り方4
扇の部分の根元を蔓やワイヤーなどで巻く。
*竹が下の方まで割けてしまわないようにしっかり補強する。



完成
*使う際には扇の部分を一晚ほど水にしっかりと浸して湿らせる。
*短すぎると使う際に火が近いし、しなりが悪い。長すぎると扱いにくい。ちょうどよい長さに調整する(このはたき棒は、3m程度)。

はたき棒
はたき棒野焼きの際に、火を叩き消す(火をはたく)ための昔ながらの道具。地面に押し付けるようにして消し、延焼するのを防ぐ。今はジェットシューターが主流だが、水が切れてしまった時などのことを考えると何人かが持つていると心強い。ジェットシューターより軽く、扱いやすいのが利点だが、パタパタ仰いでしまうと逆効果になるので注意。



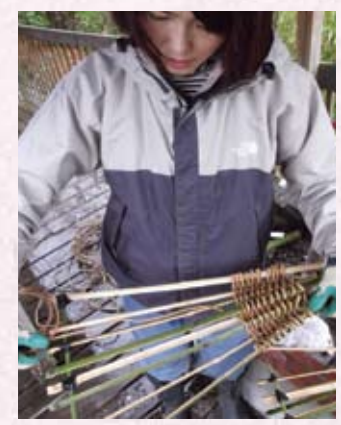
材料
●竹(長さ3m程度、直径が4cm程度(手に収まりやすい太さ)を選ぶ)
●蔓(かずら…アケビやフジなどのツル)
*蔓は水につけて柔らかくし、節を削っておくと編みやすい



作り方1
ナタを使って竹を8つに割く。割くのは端から60cm程度。
*割いた竹は節を削ってささくれを落とす(作業中に手をケガしないように)。
*割くのは竹の先端側(はたき棒を立てた時に竹が生えている向きと同じになる方がよいとされる)。



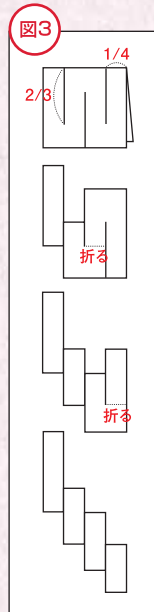
作り方2
裂いた竹を扇の骨のように等間隔に水平に開く。
*竹を開いた状態のままにするため、上部に横棒(竹の枝などまっすぐなもの)を渡して、ビニールテープなどで固定する。次の作業のため、固定するのは両端と1本おき程度。



作り方3
根元から蔓を編んでいく。竹の骨を交互にすくいながら丁寧に。
*形が固定されてきたら、横棒を外す。

はたき棒

飾り等に利用されてきました。また、藁縄を飾った正月飾りには人々の思いが込められています。藁は人々の生活に役立ち、古くならでもゴミとして捨てるのではなく、土に返して新たな作物の肥料になったり、燃やしてその灰を掃除や台所で役立たせたりできます。このことから、藁は生まれて消えても、また生まれ変わる「永遠の命」を表すと考えられてきたのです。そこから発展して藁に神様が宿るものとし、これを材料に年神を迎える飾りを作りました。



紙垂をつくる

作り方1
半紙を半分に折り、切って2枚にする。2枚とも半分に折り、図のように切り込みを3本入れる。(切り込み長さは高さの2/3)

作り方2
左端の一片を指で押さえて残りの三片を順次、手前へ折り返す。(図3) もう一枚は、左端の一片を指で押さえて残りの三片を順次、奥へ折り返す。

作り方3
重なっているところをピラピラしないようにのりで留める。



飾りつけ【輪飾り編】

作り方1
松の葉や松ぼっくり、南天の実などを採取してくる。のしや扇など、飾りたい材料を準備する。

作り方2
藁の巻き方や全ての飾りの位置を決める。(藁の根元は向って右)藁を輪っかにして紐で留め、紙垂を左右対称にしてしめ縄に付ける。他の飾りも藁の間に差し込んだり紐などで固定する。

作り方3
最後に吊るす為のヒモを上につけたら、完成。

縄織い縄には「右織い」と「左織い」がありますが、藁で織った縄にはいろいろな用途があります。右織いで、草履や足な、紐などの生活用品に、左織いの縄は神事やしめ



材料
●脱穀した後の藁/1束程度
●ひも/適量
●半紙などの和紙/1枚
●のり
●はさみ



下準備1/はかまをすぐる
藁についているはかま(根元に付いている草)を、藁すぐり(くしのような道具)をつかって取り除く。藁すぐりが無ければ、手を藁のようにして藁の間に指を通し、はかまを取る。



下準備2/藁をうつ
藁を扱いやすいように柔らかくする。木づちで叩くか、ローラーを通すか、或いは道具がない場合は手で少し揉んで柔らかくする。



左織いの縄を織う【正月飾り編】



作り方1
藁を10本ほど手に取り、穂先を揃える。根元を紐で結び、一束にする。手の平を湿らす。(扱いやすいように) 地面に座り、右膝を立てかかとなどで藁の根元を固定する。1束の藁を2本に分け、両手ではさみ、右手を上にして重ねる。右手を手前に引き、2本の藁がクルクルと回るように力強く織う。(図1) 手前にある藁を、上を通して奥に置く。(図2) それを繰り返す。



作り方2/うわよりをかける
ある程度の長さになったら、2本を1束にまとめ、さきと逆方向に織い、藁をしめる。

作り方3/形を整える
平らな場所で藁縄を押しながら転がす。飛び出た藁を見栄えが良いようにはさみで切る。

お お い た う つ く し 作 戦

身近な環境保全活動から、地域活性化につながる活動まで、大分県の恵み豊かな自然環境を守り、未来の子どもたちへ引き継ぐための環境分野全般に関わる取組です。「おおいたうつくし作戦」は、県民のみなさんと一緒に取り組んでいく県民運動です。



うみ (海、河川、干潟)

つち (土、大地、温泉)

くうき (大気、風)

しんりん (豊かな自然)


取材協力

甲斐 富久美・菅 優一郎・武石 小代子・武石 ヒサ・田中 美美・時松 愛子・時松 和弘・時松 千代子・時松 弘子・時松 又夫・時松 令子・奈良 絵美・他、飯田高原の皆さん
写真協力／武石 豪・長者原ビジターセンター
編集・デザイン／クリエイターズリアル・富田 満
文責／九重ふるさと自然学校・池田 真里子

引用 参考文献

九重町 1995 (九重町誌)
九重観光協会／<http://www.kokonoe-k.com/mokuteki03/index.html>
大分県農林水産研究センター／http://www.coara.or.jp/~nougijusa/kakubu/kogen/kogen_syo.html
九重ふるさと自然学校通信Vol.27 2014年 夏号
大分県「次代に残したい大分の郷土料理レシピ集」www.pref.oita.jp/soshiki/15270/kyoudoryouri.html
滋賀県東近江振興局國域事業「獣害のない元気な里づくり推進事業」猪料理レシピ集ベスト188

2017年2月22日／初版第一刷発行

発行／ 一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 **九重ふるさと自然学校**

〒879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野1624-34

本冊子掲載の記事・写真の無断転載はお断りいたします。この冊子は、「大分県うつくし作戦なかまづくり推進事業」の助成を受けています。

